

大いなる共謀

アミール・ツアルファティ

- それは天で始まり、下の市場で反映されている -

<https://youtu.be/yLzEqbbUCkg>

私が初めてユニバーサリズム（普遍主義）のメッセージを聞いたのは、フィリピンの牧師からでした。そして、私は皆さんに伝えたいのです。それは皆さんの国を苦しめています。だからこそ、皆さんがこのメッセージを真剣に聞くのが重要なのです。なぜなら、言っておきますが、皆さんの国の多くの人が今、天国への近道を勧められています。もう、イエスを信じることもイエスに従うことも必要ない、と。それは単に、文脈を無視して聖句が解釈されているからです。今や新しい教義、新しい福音が出現していて、すべての人が救われるというのです。それは、東が西から遠く離れているように、神の御言葉からかけ離れています。それは、信じられないほど危険なことです。なぜなら、それを人々に勧めたら、基本的には、彼らから救いを奪いますから。私たちは、この化粧品会社の、飛び跳ねている人たちに答えなければなりませんね。化粧品を売るのに、そんなに大音量になるとは知りませんでした。しかし、私たちの午後のメッセージは、『大いなる共謀』です。

みなさん、テレビをつけると聞こえてきますね。「ロシア（共謀）疑惑」「ウクライナ（共謀）疑惑」「トランプの共謀」などと、共謀の話は、いつも聞こえてきます。皆さんも、そろそろ理解しなければなりません。私が、いま言ったものは、全部、全くもって共謀ではありません。「共謀」とは何かを説明しましょう。ケンブリッジ辞典によると、共謀とは、「人と人との間の」もしくは、「生き物同士の」とも言えるでしょうか。「秘密裏に、あるいは非合法的に行動を共にするという合意。誰かを、もしくは、“多くの人を”惑わしたり、だましたりすることを目的とする」欺きの名人はサタンです。ちなみに、彼が知っているのはそれだけです。聖書によると、彼は諸国を欺く者です。聖書によると、彼はそれ以上、国々を欺くことができないように、1000年間、底知れぬ所に投げ込まれ、それから、短い間だけ解放されたときにも、彼は出て行って、再び国々を欺きました。彼は、それしか知りません。欺きは、私たちを取り囲んでいます。今、私が皆さんに申し上げたいのは、過去にも、現在にも、大いなる欺きと大いなる共謀が存在してきたし、これからもあるでしょう。でも、ちょっと待ってください。そんなに落ち込まないでください。私たちは、その結末を知っています。そして、だれが勝つかを知っています。まずは、思い出しましょう。神は、全ての者を、神を礼拝する者として造られました。全ての者は、神によって造られました。そして、イエスは神であるので、創造の時、その場におられました。被造物の一部としてではなく、創造主の一部として。アーメンですね？ 私たちは、それを覚えておかなければなりません。人々は、神を礼拝するために創造されたのです。

詩篇146編5節から6節。

幸いなことよ。ヤコブの神を助けとし、その神、主に望みを置く者は。主は天と地と海と その中のいっさいを造った方。とこしえまでも真実を守り、（詩篇146編5節から6節）

ヨハネの福音書1章は、イエスについて語っています。（ヨハネ1章1節から3節）

「初めに、ことばがあった。」ちなみに、「初めに」というのは、聖書全体における最初の言葉です。ヨハネ1章1節から3節。

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。（ヨハネ1章1節）

つまり、神が初めに世界を創造されたとき、ことばは神とともにありました。イエスは神とともにいました。

ことばは神とともにあった。ことばは神であった。（ヨハネ1章1節）

彼は神の一部であり、初めに、神とともにおられました。

「この方は、初めに神とともにおられた。全てのものは、この方によって造られた。この方によらずに…」 (3節)

「イエスがそこにいなかったとしたら？」と言う人たちがいます。「イエスは脇に置いておこう」 どうしてイエスを脇に置くことができるでしょう？「造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない」のですから。イエスを脇に置いたら、この宇宙の中で立っていられるものは何もありません。それが分かりますか？要するに、ヨハネ1章が言っているのは、イエスが神であること。彼は神と共にあり、彼なしでは神は何もされなかった。なぜなら、この方によって、すべてのものが造られたからです。だからこそ、だれでもイエスなしでは救われることは絶対にあり得ないのです。それは、神の存在を認めることなく、神を信じているようなものです。コロサイ人への手紙1章に書かれていることも覚えておかなければなりません。コロサイ1章13節～17節。

神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子のうちにあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。(コロサイ1章13節から14節)

どうやって？彼の血によってです。

御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。(15節)

イエスを見ると、皆さんは神を見るのです。彼は、見えない神のかたちです。人々は神を見ることはできませんでした。誰も神の顔を見たことはありませんでした。イエスを見たとき、あなたは神を見たのです。ところで、モーセが幕屋に入ったとき、聖書には、モーセが顔と顔を合わせて主と語ったと書かれています。人が自分の友と語るように。彼が顔と顔を合わせて主と語ることができたとは、どういうことでしょうか。その数節後で、モーセが神に御顔(栄光)を見せてくださるように願うと、神は、「だれもわたしの顔を見て、なお生きることができない」とおっしゃいました。モーセは、幕屋の中でだれと語ったのでしょうか？私は申し上げます。イエスは、すでにそこにおられました。幕屋の中で、顔と顔を合わせてモーセと語られて。そして、彼は私たちをその闇の力から救い出されました。そして、「御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。」(コロサイ1章15節)コロサイ1章13節から17節。なぜなら、…皆さん、言ってください。覚えていますか？今日は「すべて/万物(all)」という言葉があるたびに、声に出して言うことにしましたね。

なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、… (16節)

その意味が分かりますか？皆さんは、今、御使いを見ることができますか？見えませんね。しかし、御使いは存在します。私たちには見えないだけです。そして、彼らは御子によって造られたのです。

「王座も主権も支配も権威も、」では言いますよ。「すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。」(17節)

いったい、どうしてイエスを無視することができるのでしょうか？私はユダヤ人として、どうしてこんなことが言えるのでしょうか？「イエスはクリスチャンには良い。でも、ユダヤ人にとっては違う」万物は、御子イエスにあって造られているのに。ベーコンやレチヨン(豚の丸焼き)なんかを食べる異邦人だけでなく、すべてのものです！伝道者の書12章13節。

結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。(伝道者の書12章13節。)

詩篇100編3節。

知れ。主こそ神。主が、私たちが造られた。私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊である。

これでいま、私たちが理解したことは、結論として、神が私たちが創造されたということ。そして、私たちは神を礼拝するために、神のために造られたということです。ところが、神を礼拝するために神が私たちが創られたのなら、それは、どういうことでしょうか。神は、私たちが神をどのように礼拝することを望んでいるのでしょうか。霊とまことによって、です。人は、どうしたら霊とまことによって誰かを礼拝することができますか？その人が、心から礼拝するのではないとしたら？つまり、私たちが霊とまことによって主をあがめるためには、私たちには何がなければなりませんか？自由な意志です。神は私たち全員に何を与えてくださいましたか？自由意志です。言い換えるなら、私たちには選ぶことができるのです。主を礼拝するか、しないか。主を愛するか、愛さないか。主を受け入れるか、受け入れないか。そして、私たちが実際に受け入れて、愛し、礼拝するときは、それは私たちがそうすることを選んだからです。そして、それが真の礼拝と呼ばれるものです。いいですか、あなたが、ある女性と結婚したとします。彼女はあなたに耐えられません。でも、彼女はあなたの所に来て、言います。（機械的に）「愛してる、愛してる、愛してる…」あなたは、自分の奥さんからそんな愛がほしいですか？あなたの幼いお子さんが近づいてきます。彼らがあなたを嫌っているのは分かっています。でも、「ほら、おいで」と言うと、彼らはこんな顔（イヤそうな表情）をしながら近づいてきます。「愛してます、愛してます、愛してます…」まるでロボットのようです。神は私たちがロボットとして造り、「愛しています。礼拝します」と言わせるために、自動モードに設定したのではありません。そうではありません。自由意志がなければ、決して誰にも愛することはできません。愛は、自由意志に基づいています。愛がなかったら、困ったことになります。そして、神が愛であるとき、私たちの内に自由意志がない限り、私たちは神を愛することができません。だから神は、すべての人に自由意志を与えられました。創世記2章16節から17節。

『あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは…』なんですか？『必ず死ぬ。』

これらは神の言葉です。神の御言葉は信頼した方がいいですよ。神は知っておられますから。神は私たちが造られたんです。神はマニュアルを正確に知っています。そのマニュアル、説明書を書いたのは神だからです。神は私たちがどういうものかを知っておられます。「ほら、それに触ってはいけない」親が子どもに、「コンセントに手を入れちゃダメだよ」と言うようなものです。「感電してしまうからね」「それはやってはいけないよ。死んでしまうから」「ものすごく高い橋から飛び降りたら、死んでしまうよ」「それはしてはいけない」「ほら。食べてもよい」何を？「あなたは、園のどの木からでも…」何と？「思いのまま食べてよい」「マンゴー？」どうぞ。「リンゴ？」どうぞ。「梨？」どうぞ。何でもいいよ。好きなように。何でもいいから。世界は、とても美しかったんです。津波も地震も台風もない。火山もなく、洪水もなかった。暑くもありませんでした…。というのも、「日の涼しい風の吹くころ（口語訳）」とあります。昼間に、涼しかったんです。すごいじゃないですか。ところで、その当時は、全く、一度も地上に雨が降ってくることはありませんでした。だれも傘を買う必要はなかったし、（雨を避けて）避難することもなかったんです。完璧な世界だったんです！様々な木々が生えていて、何事も人間の干渉を受けずにいました。それらは薬剤を散布されていなかったし、大量生産するために遺伝子操作もされていませんでした。それらはオーガニックでした。無料の自然食品です。何を食べてもよい。ただ、1本だけ、木があって、それに触れると、必ず死ぬことになる。「はい」「わかりました」「承知しました」では、私たちがどの木に触りたくなるか、当ててみてください。その、ただ1つの木です。ところで、神には、その木を選ぶ能力を与えずに、私たちが創造することもできました。そうすることもできました。でも、それだったら、自由意志にはなりません。そうしたら、真の礼拝ではなくなります。そして、それは本当の愛ではなくなります。申命記30章。神は、モーセを通して語られています。申命記30章19節から20節。

「私は、きょう、あなたがたに対して天と地とを、証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。」それゆえに…何と言われましたか？「あなたはいのちを選びなさい。」

神は、それはあなたの選択だとおっしゃいます。「わたしは、あなたに自由意志を与える。いのちを選びなさい。それが、わたしからのアドバイスだ。いのちを選びなさい」死を聖化しようとしている宗教がいくつかあります。彼ら

は人々に自爆して、たくさんの人を道連れに殺しなさいと命じています。彼らは「死を選びなさい」と言います。「そうしたら、72人の処女が、あなたを待っているから」そして、彼らが天国に着いたら、スベル^{あわ}違いで、待っていたのは72歳の処女が一人。私には何のことか、よく分かりませんが、しかし、それはどんなに哀れなことでしょう。彼らに約束されているのは、ただ、この性的な世界だけです。神聖さもなければ、礼拝もない。処女がいるだけです。神は、私たち全員に言われます。「いのちを選びなさい」そして、神は言われます。あなたのためだけの命ではない。あなたが命を選ぶとき、「あなたもあなたの子孫も生き、あなたの神、主を愛し、…」いいですか、あなたが命を選ぶときにだけ、その正しい選択は何につながると？

主を愛し、御声に聞き従い、主にすがるためだ。確かに主はあなたのいのちであり、あなたは長く生きて…

ヨガでも野菜ジュースでもありません。あなたの人生の長さ、あなたに必要ないのちは、神です。では、神とは誰ですか？イエスです。

あなたは主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた地で、長く生きて住む。

ヨシュアもまた、イスラエルがその地に入った後で、彼らが奇蹟につぐ奇蹟を見た後で、彼が部族間に土地を振り分け、ヨシュアは、ようやく腰を落ち着けようとして、気がつきます。この人たちは、とてもいい具合に、あまりにも早く、うまくいきすぎた。うーん。そこで、彼は彼らに言いました。

ヨシュア記24章15節。

「もしも主に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、」それなら、何と？「川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。私と私の家とは、主に仕える。」

それは選択です。いっしょに言いましょ。私と私の家とは、主に仕える」それは選択なんです。エゼキエル書18章30節から32節。

「それゆえ、イスラエルの家よ、わたしはあなたがたをそれぞれその態度にしたがってさばく。一神である主の御告げ一悔い改めて、あなたがたのすべてのそむきの罪を振り捨てよ。不義に引き込まれることがないようにせよ。あなたがたの犯したすべてのそむきの罪をあなたがたの中から放り出せ。こうして、新しい心と新しい霊を得よ。イスラエルの家よ。なぜ、あなたがたは死のうとするのか。」（30節から31節）

神は預言者を通して言われます。イスラエルよ、あなたがたは救われなければならない。宗教では救われない。なぜ、あなたがたは死のうとするのか。「わたしは、誰が死ぬのも喜ばないからだ。」（32節）神は、今この瞬間に、皆さんに言っています。「わたしは生きている者の神だ。わたしはあなたに生きてほしい。あなたはいのちを選ばなければならない。わたしはだれが死ぬのも喜ばない。一神である主の御告げ一

「だから、」何と？「悔い改めて、生きよ。（32節）

ヨハネ1章12節から13節。

しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

あなたがイエスを受け入れたら、その時にやっとあなたは神の子になるんです。「私たちはみんな、神の子です」違います！あなたが神を受け入れた場合だけです。「私たちはみんな、神のかたちに似せて造られています」違います。それはアダムだけです。申し訳ありませんが、言わせてもらいます。残りの皆さんは、アダムとその子孫のかたちに造られたんです。それがわかりますか？セツはアダムのかたちに造られました。神のかたちではありません。アダムは、すでに罪人でした。私たちは罪の中に生まれるのです。「よくもそんなことを…、赤ちゃんたちは…」あなたがたは罪の中に生まれたのです。ダビデが、そう言ったんです。

罪ある者として母は私をみごもりました。（詩篇51編5節）

ヨハネ1章12節から13節。

すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

自らを神の子どもと名乗ることができるのは、新しく生まれた人たちだけです。黙示録3章20節。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、」あなたが神の声を聞いて、…それから？開けさえすれば、あなたが積極的に関わるのです。「戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」

私たちはすでに、神がすべての人を創造され、すべての人に自由意志を与えられたことをはっきりさせました。しかし、そこに誘惑が来しました。誘惑。私たちは、創世記3章で本物の蛇がいたことを知っています。それは現実に実際の物理的な呪いを受けました。一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない、と。サタンは物理的な領域で活動できますが、肉体を持つ存在ではありません。彼は霊的な領域で活動する霊的な存在です。それは、彼の霊的な属性を詳細に記述している多くの聖書箇所でも説明されています。第1ペテロ、マタイ、使徒の働き、エペソ人への手紙などです。しかし、この驚くべき最初の誘惑の場合には、サタンは、言うなればその生き物、蛇の中に入ります。他の箇所からも、私たちは重要な原則を見つけることができます。サタンや悪霊たちは人や動物に入り、彼らに影響を与えることができます。覚えていますか？悪霊たちが、あの悪霊に憑かれた男性から追い出されたとき、悪霊たちは、豚の群れの中に入っていきました。その豚の群れも気が狂って、ガリラヤ湖まで突っ走って行って溺れました。創世記3章14節から15節。

神である主は蛇に仰せられた。『おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりもろわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつ়。』

これは歴史上の、まさに一番最初の聖書預言です。つまり、神は未来に移動したのです。『彼は…、おまえは…』それは預言です。サタンよ、これからおまえに何が起こるかを教えよう。おまえにできるのは、ただ、かかとを砕くことだけだ。しかし、現れようとしている子孫（種）は、おまえの頭を踏み砕く。それが結末だ。サタンよ。創世記3章から、おまえは知らなければならない。終わりは来る。おまえは死ぬ運命だ。おまえは踏み砕かれるそして、それは女の種（子孫）に他ならない。その瞬間から、ずっとサタンは探しています。「女の種（子孫）とは、だれだ？殺してやろう」そして、彼はカインとアベルを見ました。善いやつは、どっちだ？アベル？じゃあ、アベルを殺そう。サタンはセツが出現して、何か別のことが起こるとは知る由もありませんでした。罪は止みませんでした。罪は入り込んで、そして広がったのです。それは非常に誤った1つの決断から始まりました。それが発展して、どうなったかを見てみましょう。

創世記6章1節から4節。

「さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、」注目してください。人が増え始めて、彼らに娘たちが生まれ始めました。言い換えれば、人間の数が増え始め、彼らに娘たちが生まれます。人間の娘たちです。

神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。そこで、主は、『わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉に過ぎないからだ。それで人の年齢は、百二十年にしよう』と仰せられた。（2節から3節）

その時以来、見ての通り、私たちの寿命はそれを超えない、とても限られたものになりました。しかし、奇妙なことが起こりました。これが最初の共謀です。何があったのかというと、私たちは、天のものが地のものに介入するのを見ます。霊的ではないやり方で。それは実に、もっぱら肉の問題です。外見がすべてです。ただ、娘たちの外見が美しいから、奪えるものは奪ってしまおう。さて、ある人たちは、「神の子ら」というのはセツの息子たちのことかもしれないと言います。しかし、セツの息子たちは人間でした。まだ人間です。しかし、これを見てください。とても興味深いんです。創世記4章26節。

「セツにもまた男の子が生まれた。彼は、その子をエノシュと名づけた。」「そのとき、」です。「そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた。」

ところで、ヘブライ語では、こんな感じです。これはヘブル語で書かれています。(ヘブル語で)つまり、エノシュが生まれたときに、エノシュの子孫たちは…「そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた」ご存知でしたか？ヘブル語では「人類」という言葉はありません。人類という言葉は「エノシュ」です。エノシュから来ています。人間という言葉は、「ベネ・エノシュ」です。エノシュの息子たち。ということは、面白いことに、私たちは基本的に、こう言っているわけです。人間は、もともと何の目的のために造られたのかというと、それは、何のため？主の御名によって祈るためです。

人間、人類は、主の御名によって祈るように造られました。しかし、人類が主の御名によって祈り始めたために、どうなったと思いますか？最初の共謀が起こりました。そして、6章の最初の共謀がもたらしたのは、当時、およびそれから後にも地上にいた巨人たち(ネフィリム)です。創世記6章1節から4節。

神の子らが、人の娘たちのところにはいり、彼らに子どもができたころ、(4節)

いいですか。人間が人間と結婚しても巨人は生まれてきません。私たちには、新しい人種を作ることは出来ません。神が作られたものではないものを。ここでは何か、普通ではないことが起きています。それは、墮落した御使いたちが実際に人間の娘たちの中に入った場合にのみ、起こり得たことでした。

創世記6章1節から4節。

これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。

ちなみに、全世界がそれらの者を崇拜し始めたに違いありません。世界中が彼らを恐れ、彼らを崇拜していました。「名のある者たち」というのが、洪水を引き起こすことになった称号であるかもしれません。地球があまりにも汚染され、あまりにも不敬虔であった時に。名高いのが、人間である時に。その生き物が、人間の側の肉と、御使いの側の不従順から成るものである時に。なぜなら、聖書には非常にはっきりと記されています。御使いたちは、天では結婚しません。できない、という訳ではありません。彼らは「しない」のです。とても面白いです。この「神の子ら」とは、誰なのでしょう？繰り返しますが、セツの息子たちだと言う人もいれば、高貴な人たち、貴族や王だと言う人、そしてもちろん墮天使たちだと言う人もいます。私が個人的に…。ちなみに、皆さんは私とは違う意見を持ってよいですよ。ただし、いまは私が教える側ですから、皆さんは待っていなければなりません。ネフィリムが地にいました。「ネフィリム」という言葉は、ヘブル語の「落ちる、落ちた」という意味の語から来ています。ヘブル語で「ネファル」落ちた。人間はすでに地上にいます。落ちる必要はありません。たしかに、あなたは罪に落ちます。しかし実際に、物理的に1つの場所から別の場所に落ち、半分人間、半分怪物のような新種の、言葉で表現できないようなものを作り出すためには、落ちなければなりません。

そして、これが私の言いたいことなのですが、最初に見られる共謀は、言うまでもなくサタンが自分のもとに御使いたちを集めて、これは「御使い対神」の構図です。そして、それが面白いのは、イザヤ書14章にサタンのことが書かれていますが、イザヤ書14章12節から21節。

あかつき
暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ…』

ところで、それは天には様々なレベルがあることを示しています。サタンが天にいながら、それでも神のいる所に昇りたがっていたなら、それは、天には異なるレベルがあることを意味しています。サタンが投げ落とされた時に、必ずしも地に投げ落とされたとは書かれていません。なぜなら地上に戻って来るというのは、私たちが天に行く時にしか起こらないからです。そして、もちろんそれが大交換です。引き留めるものが取り除かれ、私たちは上に行き、彼は下に降りて来ます。しかし皆さんに見てほしいのは、彼の言葉です。

『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。密雲の頂きに上り、』ということは、つまり、彼はどこかそれよりも低いわけで、『いと高き方のようになろう』それがサタンのやりたいものです。偽物です。「いと高き方のように」『しかし、あなたはよみに落とされ、穴の底に落とされる。あなたを見る者は、あなたを見つめ、あなたを見きわめる。『この者が、地を震わせ、王国を震え上がらせ、世界を荒野のようにし、町々を絶滅し、捕虜たちを家に帰さなかった者なのか。すべての国の王たちはみな、おのおの自分の墓で、尊ばれて眠っている。しかし、あなたは、忌みきらわれる若枝のように墓の外に投げ落とされた。』（15節から19節）

次にエゼキエル書28章に続きましょう。エゼキエル書28章で、彼はこう言います。

『次のような主のことばが私にあった。』エゼキエル書28章12節から19節。『人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。』この記述に注目してください。

『神である主はこう仰せられる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石があなたをおおっていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、しまめのう、碧玉、サファイヤ、トルコ玉、エメラルド。あなたのタンバリンと笛とは金で作られ、これらはあなたが造られた日に整えられていた。』彼は創造された存在です。『わたしは、油注がれた守護者ケルビムとして[油注がれた御使いとして]あなたを任命した。』（新改訳2017年版）『お前は神の聖なる山にいて火の石の間を歩いていた。あなたの行いは、あなたが造られた日から…』（新共同訳）いつまで？『あなたに不正が見いだされるまでは、完全だった。あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、あなたは罪を犯した。そこで、私はあなたを汚れたものとして神の山から追い出し、守護者ケルビムよ。わたしは火の石の間からあなたを消えさせさせた。あなたの心は自分の美しさに高ぶり、』いいですか？外見の美しさが全てなんです。見た目が全てで、肉が全てで、彼は、自分は特別だと思いました。『その輝きのために自分の知恵を腐らせた。』知恵と美しさ。これらがいまの世間が崇拜している2つのものです。『その輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に投げ出し、王たちの前に見せものとした。国々の民のうちであなたを知る者はみな、あなたのことでおののいた。』

ですから、天で何かが起こった、ということが分かります。それは、神をして、最も重要な御使いの一人と、彼とともに集まった御使いたちを全て、聖なる会合の聖なる山から投げ落とさせました。それでいま、彼らは必ずしも地上にいるとは限りませんが、他の何よりも、ずっと低くされました。そして、私たちは、彼らの数が多かったことを知っています。では一般的に、天国には何人の御使いがいるのでしょうか？いいですか。そのことについては、聖書は断片的に教えてくれています。マタイの福音書26章52節から53節。

そのとき、イエスは彼に言われた。『剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。それとも、わたしが父にお願いして、』

何をさせていただくと？何を用意してくださる、と？十二軍団よりも多くの御使い、です。イエスは言われました。「ほら、いとも簡単に」軍団を置いてもらうことができる。12軍団を。神はそれよりもはるかに多く、無数の御使いたちを創造されました。ダニエル書7章9節から10節。

「私が見ていると、いくつかの御座が備えられ、年を経た方が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭の毛は…」彼はイエスのことを語っています「頭の毛は混じりけのない羊の毛のようであった。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、火の流れがこの方の前から流れ出ていた。幾千のものがこの方に仕え、幾万のものがその前に立っていた。さばく方が座に着き、いくつかの文章が開かれた。」

それだけでは足りないとしたら、ヘブル人への手紙12章を見てください。ヘブル12章22節。

「しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、」それから？「無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。」

ヨハネの黙示録5章にも書かれています。黙示録5章11節から12節。

また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。彼らは大声で言った。『ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。』

御使いたちは、人類との間で生殖したでしょうか？何と書いてあるか、見てみましょう。マタイの福音書22章には、こう述べてあります。マタイ22章30節。

復活の時には、人はめとることも、とつぐこともなく、天の御使いたちのようです。

しかし、そこには「御使いたちは結婚することができない」とは書かれていません。むしろ、御使いたちが結婚を「しない」ということだけを示しています。その上、マタイの福音書22章30節は、「天の御使いたち」のことに言及しています。それは、神が作られた秩序を気につけない墮落した御使いたちのことを指しているではありません。彼らは神の計画を妨害する方法を精力的に探しています。覚えていますか？人間が主の御名を呼び始めた瞬間から…、エノシュ、ベネ・エノシュは、主の御名を呼ぶ（主の御名で祈る）べく、造られています。その時、サタンは言うのです。「どうにかしなければならぬ。エデンの園で起きた墮落の後、もう全滅させたと思っていた。あらら」彼らは再び主の名を呼び始めた。「さあ、降りて行って、彼らと混じろう。そして、彼らは破壊しよう」興味深いですね。私たちは、御使いたちは霊的な存在でありながら、人間の肉体の形をとって現れることができるのを知っています。私たちはそれを見てきました。ソドムとゴモラの男たちは、ロトと一緒にいた二人の御使いと性交したがりました。御使いたちは、人間の形をとって、人間の性的特質や、おそらくは生殖機能までも再現することができるというのは、もっともなことです。では、なぜ墮落した御使いたちは、もっと頻繁にそうしないのですか？それは単に、その時のこの悪事を犯した、墮落した御使いたちを神が閉じ込められたからです。他の墮落した御使いたちが同じことをしないように。私たちは、ユダの手紙6節からそのことを知っています。それは分かっています。それで何が起こったのかというと、戦いがありました。サタンのような力ある御使いたちが、自分たちの仲間の御使いを集めていました。彼らは共謀し始めました。天における大いなる共謀です。そして、天では、忠実な御使いたちと彼らの間に戦いが起こりました。信じられないようですが、私たちは今、この瞬間に、ここで生活をし、スターバックスのダブルエスプレッソをすすっているかもしれません。けれども、戦いが続けられているのです。天において。私たちの見えない所で行われている霊的な戦いです。黙示録12章1節から6節。

また、巨大なしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角を持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。その尾は、天の星の三分之一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだ時、その子を食い尽くすためであった。

「その子」とは、誰でしょう？イエスです！その女とは、誰でしょう？イスラエル国家です。その竜とは、誰でしょう？サタンです。彼は何をしたがったのか。イエスが生まれた時に、すぐに殺すこと。覚えていますか？もしもし？

ベツレヘムの二歳以下の赤ちゃんたちは、みな、殺されなければなりません。しかし、「女は男の子を産んだ」その子は、何だと？

この子は、[将来]鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。

皆さんは、今イエスがどこにおられるか知っていますね？「女は荒野に逃れた」これは、未来の話です。反キリストが彼らを滅ぼそうとする時に、イスラエルの民が1260日を荒野で過ごすことになる時の話です。1260日間は、聖書的な解釈では3年半です。7年間の患難中の後半の3年半は、神がイスラエルのために場所を整えられて、彼らを荒野で守られる時です。見てください。

そこには、千二百六十日の間 彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

聖書が一日も変わらず正確であるのは、最高ですね。イスラエルがヤコブの苦難中に守られるという黙示録12章のタイミングから、私たちがいなくなって患難時代が始まったら、サタンとその仲間が地上に投げ落とされることが分かります。私たちに、それが分かっています。彼はすでに地上にいます。そういうわけで…、面白いと思いませんか？私たちがここにいるために、聖霊がここにいる間は、彼はここには いられないのです。私たちがここから連れ出される時、引き止めるものが取り除かれて、そうすると、天で行われていたあの戦いが、今度は地上で行われることになります。黙示録12章7節から17節。

「さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが勝つことができず、天には もはや彼らのいる場所がなくなった。」そして、どうなったでしょう？「こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わすあの古い蛇は投げ落とされた。」彼は、どこに投げ落とされたでしょう？地上に。彼の使いたちは？「彼とともに投げ落とされた。そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。『今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟の告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。』

美しいです。黙示録12章7節から17節。最後まで続きます。

「すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、」つまり、イスラエル「すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。」

もちろん、その時、彼らはイスラエルの全12部族からの144,000人によって、伝道されています。では、何が分かるでしょう？私たちに、天において戦いがあったことが分かります。それから、忠実な信者たちによる地上での戦いがあることが分かります。私たちはみな、生涯にわたって、霊的な戦いの最中にある者として描かれています。パウロはテモテに言いました。「私は走るべき道のりを走り終えた」「私は勇敢に戦った」ということは、戦うべき戦いがあるということです。それは、あなたがクリスチャンになった瞬間からの信者としての生活は、易しいものではないということです。それは、実際には非常に多くの困難と、非常に多くの霊的な戦いで敷き詰められています。ヨハネ14章30節から31節。

わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。しかしそのことは、わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行っていることを世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。

では、サタンは今、どこにいますか？質問です。彼は今、どこですか？今、この瞬間に？私たちは、サタンが、まだ底知れぬ所に投げ込まれていないのを知っています。私たちにまた分かっているのは、彼が地上で彼自身、つまり竜

になれるのは…、いつ？大交換が起こる時です。私たちは確かに、彼がいかに天から落ちたかについてを読んできました。しかし、彼はまだ天と呼ばれる領域にいます。ルカの福音書10章18節。

イエスは言われた。『わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。』

会合の山から。神とその御使いたちのいる最も聖なる場所から。しかしサタンとその仲間は、まだ天の領域にいることを忘れないでください。エペソ人への手紙6章にあるように。エペソ6章10節から20節。

終わりに言います。主にあって、その大能^{たいのう}の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神の全ての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

どこですか？「天」です。「ですから…神のすべての武具をとりなさい。」いいですか。あなたは目に見えないものと戦っているのです。それは天にいます。目に見えないのです。サタンの攻撃、悪魔的な攻撃、悪霊の攻撃。それらの悪霊は見えませんが、彼らはいたるところにいます。ちなみに、イエスは容易に彼らを見ることができました。イエスは簡単に彼らを追い出すことができたのです。そしてもちろん、イエスは私たちにその力をくださいました。しかし聞いてください。キリストとその神の御霊なしでは、それらの悪霊を見ることはできません。そして、その驚くべき戦いを見ることはできません。

では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪いものが放つ火矢を、みな消すことができます。救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である神のこばを受け取りなさい。

注目してください。御霊の与える剣、それは神の言葉です。神の言葉がなければ、あなたには武器がありません。空港に、ある女性が来たんです。これはお勧めしませんけど…。イスラエルの保安検査は、ホントにものすごく厳しいんです。「武器を所有していますか？」「はい、持っています。それは神の言葉です」彼女は聖書を持っていました。しかし、その武器、その剣は、神の言葉なのです。

すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。また、私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるようにも祈ってください。私は鎖につながれて、福音のために大使の役を果たしています。鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。

天にいる主権や力は、地上にいる者たちをやっつけたがっています。皆さんは、それを理解しなければいけません。彼らは失敗しました。アベルとカインで終わりにならず、セツの後にエノシュが生まれた時、彼らは失敗したことに気づきました。巨人を生み出したとき、彼らは失敗しました。それから洪水が来たからです。そして彼らは、イエスが生まれたときに失敗しました。今は、すべての人々が大胆に恵みの御座の前に進み出て、あわれみと恵みを受け取ることができます。彼らは失敗しましたが、地上にいる者たちをやっつけたがっているのです。そして携拳が起こるまでは、引き止めるものが、引き止めます。アーメンですね！第2テサロニケ2章7節。

「不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止めるものがあって、」「…まで」時間制限があります。「自分が取りのぞかれる時まで引き止めているのです。」

私は皆さんに申し上げたいのですが、私たちは取り除かれますから、私たちがここからいなくなるや否や、地球は一時的に、サタンとその仲間によって強引に乗っ取られるでしょう。その結託は、ついに小さな勝利を得ますが、時間的には非常に限られているものです。私たちには次のことが分かっていますから。

第2テサロニケ2章8節。

その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きを持って滅ぼしてしまわれま

す。
私たちが今日聞いた、「不法の人の到来はサタンの働きによるのであって、」それは、まさしくサタンのいつものやり方です。「あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。」

いいですか。この聖書箇所全体、全部は、私たちがいなくなることです。不法の人が現れるのは、私たちがいなくなることです。そして彼の行うすべてのしるしは、私たちのためではありません。それは、真理への愛を受け入れなかった人たちのためのもので、今や、彼らは子分のように彼に従っています。しかしゼカリヤ書14章に書かれているのは、地上統治のためにイエスが戻って来られる。その日、主の足はオリーブ山の上に立つ。見よ。主は千万の聖徒を引き連れて来られる。イエスと一緒に戻って来たい方？イエスと一緒に戻って来るためには、まずイエスの元に行っていなければなりません。イエスのところにいるためには、まずイエスを信じる者でなければなりません。あなたは新しく生まれ、御霊に満たされた、主の弟子でなければなりません。イエスに従ってください。彼があなたのリーダーです。皆さんは、養子縁組によって神の息子や娘となるのです。皆さん、覚えていますか？なぜなら私たちは…、そのう、まあ、私たちは反逆の子だからです。そして私たちは養子になったのです。私たちは今、「アバ、父よ」と呼ぶことができるのです。彼は私たちを連れて行ってくださいます。私たちは神の御怒りに定められてはいない、と聖書に書かれているからです。聖書は、全世界に来ようとしている試練の時から神が私たちを取りだしてくださる、と言っています。そして、言うまでもなく、第2テモテに、こうあります。第2テモテ2章11節から12節。

次のことばは信頼すべきことばです。『もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。もし耐え忍んでいるなら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちを否まれる。』

黙示録20章6節。

この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。

第一の復活です！第一の復活は、イエスの復活で始まりました。なぜなら、彼は眠った者の初穂として死者の中からよみがえられたからです。イエスの前には、生まれてから、死に、復活して、再び死ななかった人は誰もいません。イエスだけです。死を経験する前に取られた人たちはいます。私たちはエノクを知っています。エリヤのことも知っています。しかし死を経験した後で、復活して、その後、二度と死ななかった人は誰もいません。たとえば、ラザロは生き返りましたが、結局は死にました。イエスが初穂です。イエスの後で、イエスが復活した日のエルサレムの聖徒たちが…、覚えていますか？弟子たちの中で死んでいた人たちが出て来ました。そして当然その後は…。そして最も重要なことは、私たちの携挙は…。イエスはマルタに言われました。「わたしは、よみがえりです。いのちです」彼こそが死者のよみがえりです。そして彼は、まだ死んでいない者たちの命です。そして世界中で見られるしるしから、私は信じています。イスラエルが自分たちの土地に戻り、エルサレムが我々の手に戻り、我々の周りの国々が、みな協力して侵攻する機会を待ち、あの鉤で、私たちが発見したばかりの油と天然ガスを奪う瞬間を待っています。今、ロシアとイランとトルコが同盟しています。リビアとスーダンも待ち構えています。私たちは至る所で背教を見えています。偽の救世主もいます。ほら、すぐそこに一人います。私たちは民族は民族に敵対し、国は国に敵対しているのを見えています。私たちは地震、疫病、火山を見えています。私たちは、終わりの時の特徴となるとイエスが言われたすべてのしるしを見えています。全部あるんです！私たちが、「過ぎ去ることのない時代（世代）」です。私たちが、イスラエルの再建を目の当たりにしている世代です。生き返ったいちじくの木を。

この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

だから1000年の間、私たちはイエスと共に統治し、その間、スツとその共謀は中断されます。
黙示録20章1節から3節。

また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って、天から下って来るのを見た。彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って、底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、…それが諸国の民を惑わすことのないようにした。

いつまで？「千年の終わるまで」「サタンは、そのあとで…」どうする、と？文末の言葉は、何ですか？「なければならない(must)」もう一度言ってください。(聴衆：Must)もう一度言ってください。(聴衆：Must)覚えておいてください。「なければならない(must)」「だろう」とか「かもしれない」ではありません。「(彼は)しばらくの間、解き放たれなければならない。」なぜか知っていますか？神は全世界に、こう言っているのです。「わたしは、あなたがたにサタンのいない1000年間を与えた」病気のない1000年間。危険な動物のいない1000年間。世界中で義が行われる1000年間。イエスが物理的にエルサレムから統治する1000年間。「1000年の間、あなたには、信じて、従い、神の家族に属するチャンスがあった」100年ではなく、1000年間。「わたしがサタンをしばらくのあいだ解放したら、どうなるか見てみよう」どうなると思いますか？聖書は言っています。黙示録20章7節から10節。

しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、地の四方にいる諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海辺の砂のようである。

イエスと一緒に1000年を過ごしたら、すべての人が新生して、御霊に満たされたすばらしい信者であろうと思うでしょう。みんな主を愛し、決してサタンには近づかないだろう、と。

彼らの数は海べの砂のようである。彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

それが最後の共謀の終わりでした。そして、「永遠に」とは永遠にずっと、という意味です。私は、パウロがテモテに言った言葉で締めくくりたいと思います。第2テモテ4章5節。

あなたは、どのような場合にも憤み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。

ご自分を見つめてください。私たちは、バリー牧師の話を聞いた所です。牧師がいるのは、群れに何をするように教えるためですか？宣教(ミニストリー)です。みことばを宣べ伝えること。皆さんは、誰も聖職者ではありません。皆さんは、みな、ミニストリーをしなければなりません。御言葉からの単純な命令によって。戦争が起こるでしょう。試練があるでしょう。「あなたがたは、世にあっては患難があります」とイエスは言われました。でも、そのことがあなたを止めるべきではありません。なぜなら、耐え忍ぶ者は、イエスと共にその座に座り、彼と共に裁き、彼と共に支配するからです。それまでは、勇敢に戦いましょう。空を打つような拳闘ではなく、勇敢に戦い抜きましょう。走るべき道のりを、走りましょう。ただ歩くのではなく、第1コリント9章にあるように、賞を得るように走りましょう。困難に耐え、伝道者として働きましょう。何事も、福音を宣べ伝えないことの言い訳にはなりません。自分の務めを十分に果たしましょう。

お父様、御言葉を感謝します。大いなる共謀が、私たちには非常に明確で、はっきりとしていることを、あなたに感謝します。私たちは、それによって驚かされません。私たちは、歴史の始まりからそれを見てきました。私たちは敵の哀れな試みを見てきました。この世界を乗っ取り、この世界の長となり、支配者となり、すべての国々を完全に欺くため。お父様、あなたは、イスラエルをあなたの証人となるべく任命されました。後に、あなたは、あなたの証人となるために教会を任命されました。あなたは、その両方を二本のラッパのように造られました。あなたが、再びこの世界に戻って来ようとしておられる事実を、鳴り響かせなければならないものです。お父様、あなたは御言葉の中で言われました。「ラッパがもし、はっきりしない音を出したら、誰が戦闘の準備をするでしょう」ですから、今日、この場所から、私たちは再び自らをラッパとして差し出します。あなたの御霊が、私たちの口から流れ出るものとなってくださいますように。代弁者としての私たちから、はっきりしない音ではなく、非常に明確な音を出すラッパとして、来たるべき裁きを世に警告し、そして、イエスの素晴らしい御業の希望を世に与えるために。イエスは唯一

の道、唯一の真理、そして唯一の命です。彼の御名には希望があります。その名はインマヌエル。イエシュア・ハ・マシアック。王の王。主の主。あなたに平安を与えることのできるお方。今も、永遠にも。ここでも、どこでも。私たちは主の御名によって祈ります。

神の民はみな、言いましょう。

アーメン。アーメン。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.05.05 (Tue)